

3 教員の意識・指導力の変化

実証校における教員のICTの活用状況やそれに対する意識、評価、ICT活用指導力等の状況を把握するため、年度ごとにアンケートを実施。

3-1 ICT活用の効果

① 教員意識アンケートの概要

i) 調査時点

- ・小学校：平成22～24年度の年度末及び平成25年12月
- ・中学校：平成23年度の事業開始当初、平成24年度の年度末及び平成25年12月

ii) 調査対象

- ・学びのイノベーション事業実証校18校（小学校10校、中学校8校）の教員。
- ・原則として調査時点で在籍する全教員。
- ・調査対象者数は以下のとおり。

学校種	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校	187(年度末)	183(年度末)	184(年度末)	79 ¹⁰ (12月)
中学校	—	130(事業開始当初) ¹¹	150(年度末)	165(12月)

iii) 調査方法

アンケート調査

iv) 調査項目

- ・小学校：以下に関する51～55項目（年度によって一部異なる）
- ・中学校：以下に関する73～77項目（年度によって一部異なる）

- ・電子黒板(IWB)について問うもの
 - ・タブレットPCについて問うもの
 - ・協働学習アプリケーションについて問うもの(中学校のみ)
 - ・電子黒板や児童生徒用コンピュータの活用効果について問うもの
 - ・今後の活用について問うもの(小学校のみ)
 - ・ICT環境の構築・運用について問うもの
- 等

10 平成25年度の小学校は研究対象学年（第3～6学年）の教員のみ。

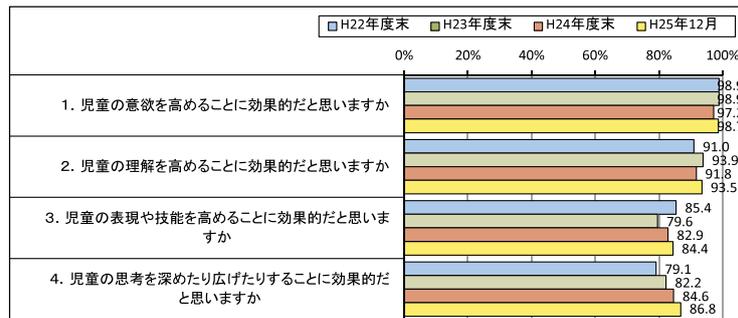
11 実証校において、ICT環境が整った時期であり、実証校によって異なる（12～3月）。また、ICT環境整備の遅れにより、実証校1校でアンケート未実施。

② 調査結果概要

i) ICT活用の有効性

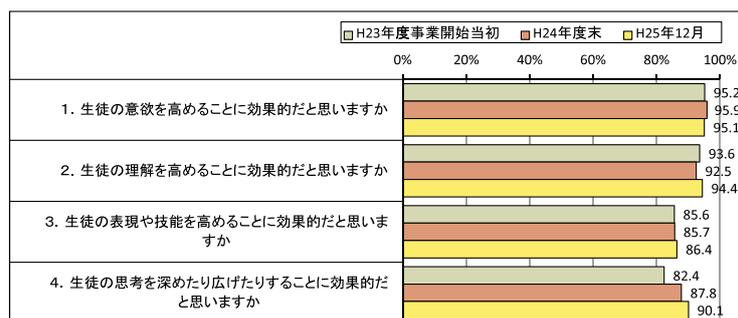
- ▶小中学校ともに、全期間を通して、約80%以上の教員が肯定的に評価している。
- ▶「児童(生徒)の思考を深めたり、広げたりすることに効果的だと思いますか」は経年で数値が高まる傾向が見られる。

ア 小学校



※「とても」及び「少し」の回答率

イ 中学校



※「とても」及び「少し」の回答率

ii) 電子黒板・タブレットPCの活用頻度、使用感、負担感

ア 小学校

- ▶全期間を通して、電子黒板の活用頻度が増加しており、「ほぼ毎日」の活用については、初年度である平成22年度末に比べ、平成25年度では2倍以上となっている。また、授業における電子黒板の使いやすさについても、全期間を通じて95%以上が肯定的に評価している。
- ▶タブレットPCの活用頻度については、初年度である平成22年度末から平成23年度末にかけ「週に1回～3回程度」が増加している。また、「まったく使用しない」集団が継続的に減少している。
- ▶一方で、電子黒板、タブレットPCともに、文字の書き易さに関する肯定的評価が約3～4割にとどまる。
- ▶負担感については、電子黒板よりもタブレットPCの方が負担と思わない者が少ない。また、電子黒板、タブレットPCともに、「教材等の準備」は、他の負担感に関する質問項目よりも、負担と思わない者が少ない。

1 児童生徒の意識の変化

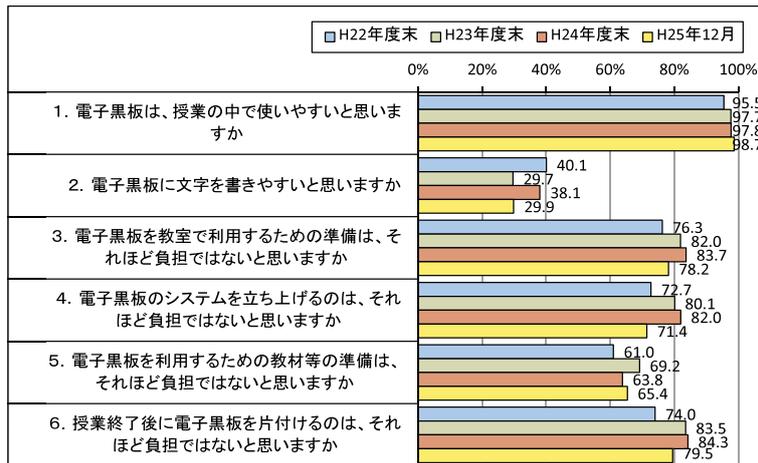
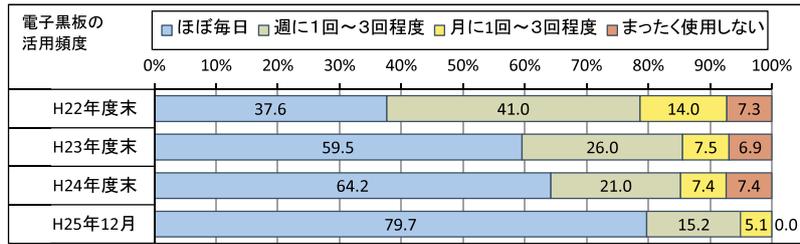
2 各種テスト等における変化

3 教員の意識・指導力の変化

4 ICTスキルの変化

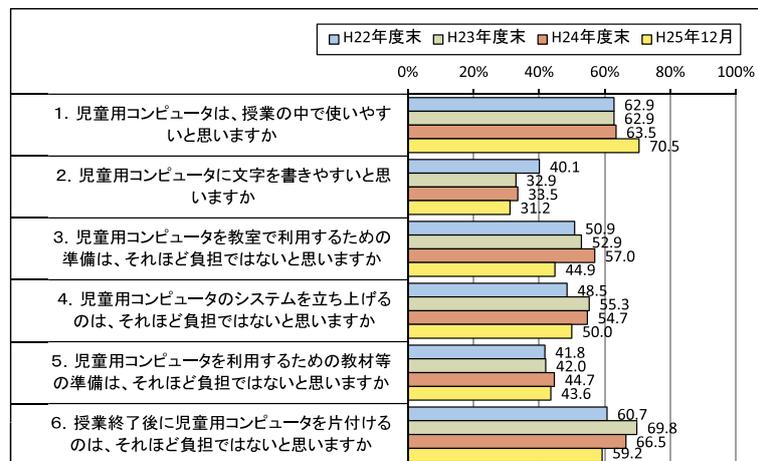
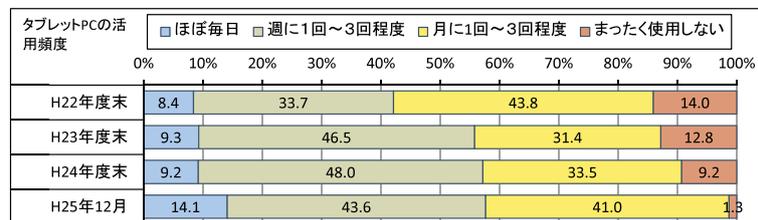
5 研究成果報告書における効果や課題

A 電子黒板



※「とても」及び「少し」の回答率

B タブレットPC

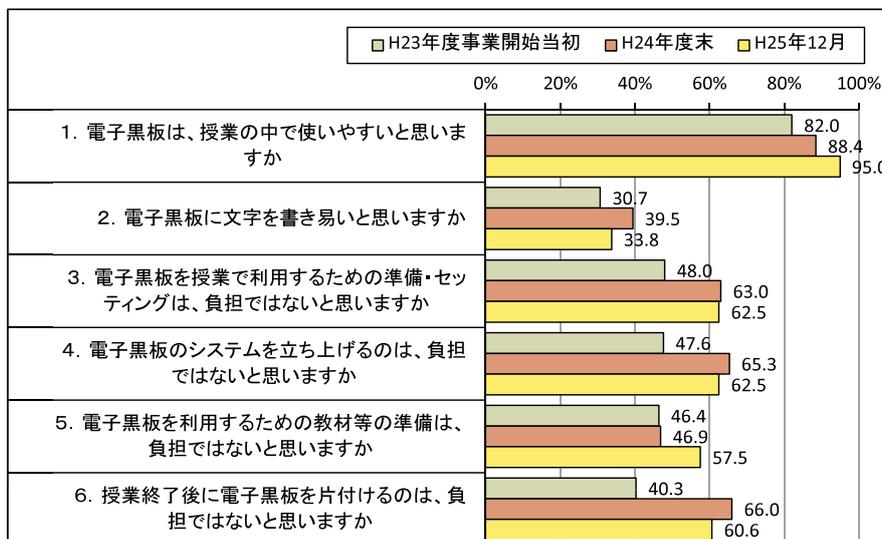
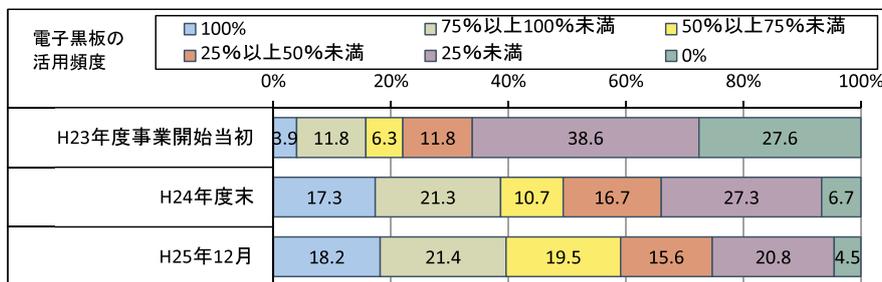


※「とても」及び「少し」の回答率

イ 中学校

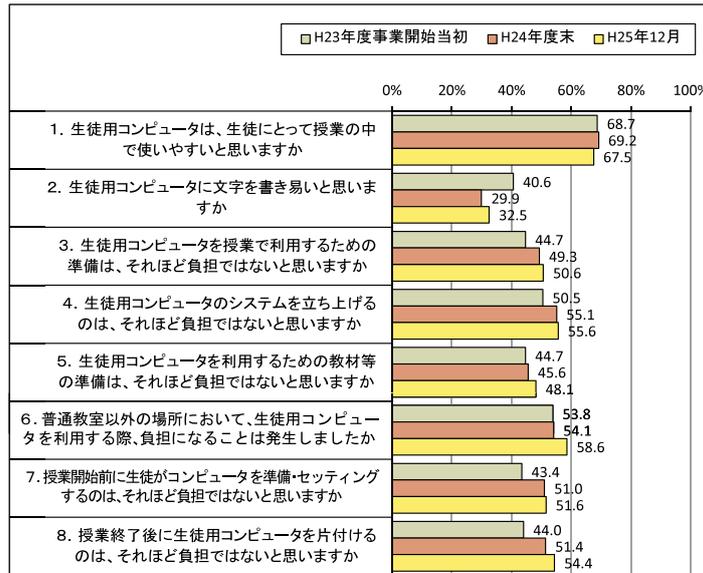
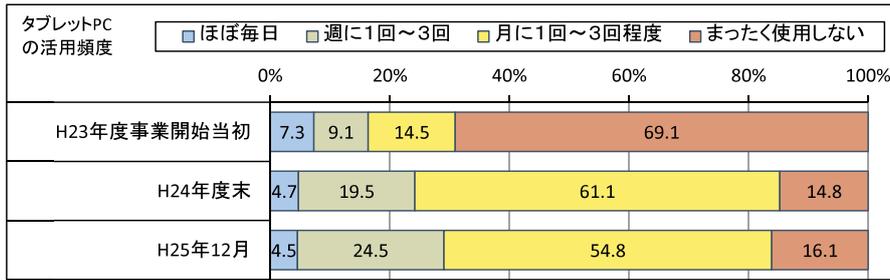
- ▶全期間を通して、電子黒板の活用頻度が増加している。また、授業における電子黒板の使いやすさについても、8割以上が肯定的評価をしており、かつ全期間を通して継続的に数値が高まる傾向が見られる。
- ▶タブレットPCの活用頻度については、小学校に比べると少ない。
- ▶電子黒板、タブレットPCともに、文字の書き易さに関する肯定的評価が約3～4割にとどまる。
- ▶全期間を通して、負担感は、電子黒板、タブレットPCともに若干減少傾向にあり、その傾向は電子黒板について相対的に大きいものの、小学校と比べると全体的に負担感が見られる。

A 電子黒板



※「とても」及び「少し」の回答率

B タブレットPC

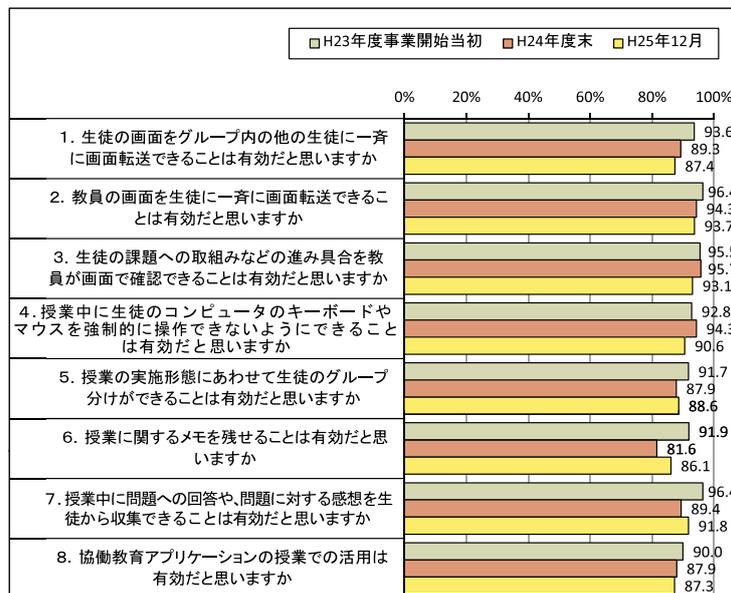


※「とても」及び「少し」の回答率

iii) 協働学習アプリケーション[※]の活用頻度、有効性

※質問文では「協働教育アプリケーション」

- ▶ 初年度に比して、事業実施後の活用頻度が若干増加している。
- ▶ 有効性については、全期間を通じて、80%以上の教員が肯定的に評価している。



※「とても」及び「少し」の回答率

1
児童生徒の意識の変化

2
各種テスト等における変化

3
教員の意識・指導力の変化

4
ICTスキルの変化

5
研究成果報告書における効果や課題

3-2 ICT活用指導力

① 教員のICT活用指導力調査の概要

i) 調査時点

小学校：平成22年度の事業開始当初¹²、平成22～24年度の年度末及び平成25年12月

中学校：平成23年度の事業開始当初、平成24年度の年度末及び平成25年12月

ii) 調査対象

- ・学びのイノベーション事業実証校18校(小学校10校、中学校8校)の教員。
- ・原則として調査時点の教員に対して実施。
- ・調査対象者数は以下のとおり。

学校種	平成 22 年度		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
小学校	166(事業開始当初)	141(年度末) ¹³	183(年度末)	184(年度末)	79 ¹⁴ (12月)
中学校	—		130(事業開始当初) ¹⁵	150(年度末)	165(12月)

iii) 調査方法

アンケート調査

iv) 調査項目

文部科学省「教員のICT活用指導力チェックリスト」と同じ以下に関する18項目

- ア 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力
- イ 授業中にICTを活用して指導する能力
- ウ 児童生徒のICT活用を指導する能力
- エ 情報モラルなど指導する能力
- オ 校務にICTを活用する能力

これらの項目について、4つの選択肢(1わりにできる、2ややできる、3あまりできない、4ほとんどできない)により回答。

12 平成22年度は総務省フューチャースクール推進事業でのデータを活用。

13 一部の転出教員(平成22年度末)がアンケート未実施。

14 平成25年度の小学校は研究対象学年(第3～6学年)の教員のみ。

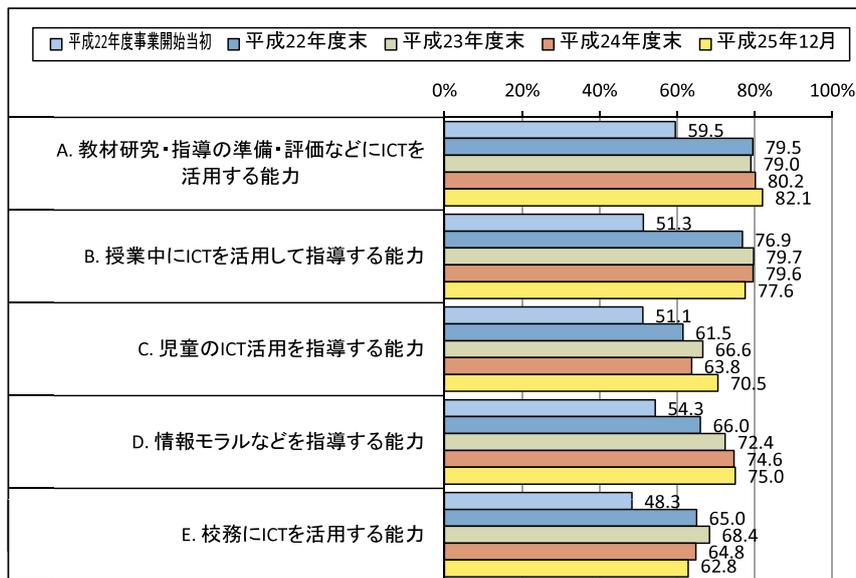
15 実証校において、ICT環境が整った時期であり、実証校によって異なる(12～3月)。また、ICT環境の整備の遅れにより、実証校1校でアンケート未実施。

② 調査結果概要

文部科学省が毎年度調査を行っている質問項目を準用し、1人1台の情報端末や電子黒板、無線LAN等が整備された環境における教員の指導力について、アンケートにより集計を行ったところ以下のような傾向が見られた。

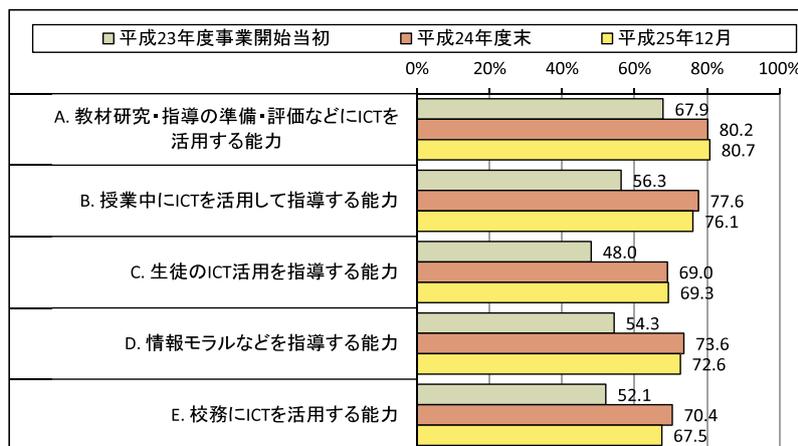
- ▶小中学校ともに、全ての項目について事業開始当時に比べ、数値が向上している。
- ▶事業開始当初から1、2年である程度向上し、それ以後は同程度の水準を維持している。

i) 小学校



※「わりができる」及び「ややできる」の回答率

ii) 中学校



※「わりができる」及び「ややできる」の回答率